

授業概要

本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付ける。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。

また、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品の見かたについて理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を自らの造形活動の実践と共に理解する。

授業計画

第 1 回	はじめに 主体的・対話的グループ活動と模擬保育（新聞紙を使ったファッションショー）
第 2 回	造形表現の領域のねらい、基本と展開（表現及び鑑賞の活動を通して）
第 3 回	様々な造形表現の世界（吹き絵：色の三属性、色相環について）
第 4 回	様々な造形表現の世界（紙版画 1:豊かな発想と構想）
第 5 回	様々な造形表現の世界（紙版画 2:形や色などの関わりと刷りについて）
第 6 回	様々な造形表現の世界（紙工作の特性）
第 7 回	造形表現の発達段階（なぐりがき期～図式期）
第 8 回	環境構成（立体的な壁面制作-①春夏編：自然の中にある色・形に気づく）
第 9 回	環境構成（立体的な壁面制作-②秋冬編：様々な素材や表現の仕方に親しむ）
第 10 回	模擬保育と指導案案（身近な自然物や人口の材料を用いた題材設定）
第 11 回	保育の実践（立体影絵の仕組みを考える）
第 12 回	保育の実践（立体影絵の投影と演じ方）
第 13 回	パネルシアターの歴史と物語の選定（心を動かす出来事との出会いと共有）
第 14 回	パネルシアターの下絵と製作（素材に親しみ工夫して遊ぶ）
第 15 回	パネルシアターの彩色と仕掛け（動きなど様々な表現の仕方）
第 16 回	パネルシアターの発表会：演じ方と舞台設定（視聴覚教材の活用） 課題のまとめ

到達目標

- ・ 幼児が様々な素材に親しみ経験して身に付けていく内容と指導上の留意点を理解することができる。
- ・ 幼児の造形表現する意欲を十分に発揮させることができるよう、教材の活用法などを理解することができる。
- ・ 幼児期から児童期にかけて造形表現における発達段階の理解を深め、指導案を作成することができる。

履修上の注意

- ・ 造形活動で用いられる様々な材料・用具（ポスターカラー・画用紙・紙粘土等）は、各自が準備することになる。授業内で随時伝えていく。
- ・ 学外活動（鑑賞会）又は学外講師を招いて講演を聴講することも予定される。

予習復習

子どもの絵を読み解くためには、学生自身が感性を豊かにし、造形力を育てるための努力と様々な経験が必要である。授業に主体的に取り組み、空き時間などを活用した継続的な学習意欲・態度を期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

- ・ 教科書名：保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」
 - ・ 著者名：梅澤 実・森本昭宏〔編著〕
 - ・ 出版社名：創成社
 - ・ ISBN：978-4-7944-8099-6（注：保育実習テキストと重複）
- パネルシアターの教材費（約 2,000 円）が別途必要である。詳細については授業の中で説明していく。